

# 推し活とジェンダー

## —同性を推す気持ちを中心に—

近年、「推し活」「ヲタ活」という言葉をよく耳にするようになった。「推し活」「ヲタ活」とは、自分の好きなアイドルや俳優、物を応援する活動全般を通し、自分が楽しむ活動をしており、Z世代と呼ばれる若者から、ミドル、シニアの世代まで様々な人々が「推し活」「ヲタ活」を楽しんでいる。

その中で、異性のアイドルの「推し活」「ヲタ活」というのは一般的であるが、ここ数年、女性が女性アイドルを「推す」姿というのは珍しい事ではなくなり広く認知されてきたようである。しかし男性が男性アイドルを「推す」という事には違和感を抱かれやすく、堂々と「男性アイドル」を推していると公言する男性は少数ではないだろうか。恋愛感情ではなく男性が「男性アイドル」を推していても、「男性アイドル」を推していると明かせば安易に「同性愛」と結びつけられてしまう事もある。「アイドル」が歌う楽曲には恋愛がテーマのものが多く、「アイドル」には疑似恋愛的な要素が含まれるためであろう。

本稿では、学生対象に「推し活」に関するアンケートや、アイドルとジェンダーの関係性、女性が女性アイドルを推す気持ち、男性が男性アイドルを推す気持ちを考察することにより、同性のアイドルに対する「推し活」の中に潜むジェンダーや、ジェンダーバイアスの問題点に注目した。

社会への進出や活躍が求められるようになってきた「女性」と頑張っている「女性アイドル」を重ね合わせることで「女性」へのジェンダーバイアスには変容の兆しが見られ「女性」が「女性アイドルを推す」ということが認知されることに繋がった。一方で、「男性」に対しては「男性アイドルを推す」という気持ちに社会で求められる「男性」へのジェンダーバイアスとの乖離があるためか、理解されづらい部分があるというものであったことがみえてきた。